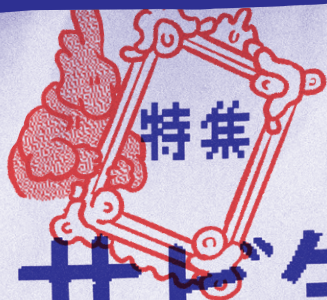




特集

ムサビ生と アルバイト

PART-TIME JOB AND MUSABI STUDENTS



ムサビの「いま」を知る、
わたしたちの広報誌

mauleaf

29

2021.11

mauleaf 29 2021年11月 発行

＼総力取材／



いようで変わってる？

ムサビ生のアルバイト

p4

座談会

アンケートでわかったムサビ生の生態

p7

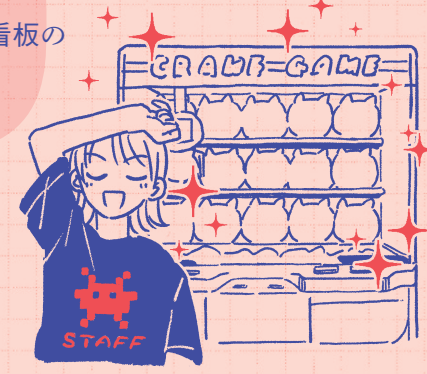


アルバイトをするなかで出てしまう「ムサビ生っぽさ」は？

料理の盛り付けに
美的センスを
出そうとする。
(日本画学科3年)



ゲームセンターで
バイトしていて、
景品並べが可愛さや
綺麗さを気にして
細かくなりがち。
(日本画学科2年)

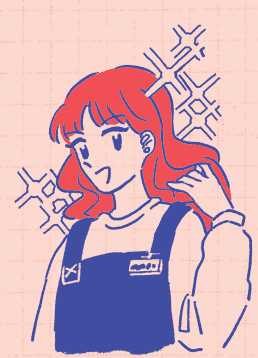


壊れた備品を厚紙で組み
立てて補強し、とりあえず
使えるようにはした。
(視覚伝達デザイン学科2年)

物を作れる
機会があると
やる気が
とても上がる。
(視覚伝達デザイン学科3年)

バイト先のハレパネの
ポップが汚いと貼り
直したくなる。
(視覚伝達デザイン学科2年)

新しいパッケージやチラシを見て
いろいろ考える。デザインに興味が
ある人のクセかも？(デザイン情報学科2年)
パッケージデザインやチラシ、
広告のデザインばかり見ている。
(工芸工業デザイン学科2年)



髪色派手でも
オツケーかどうかを
バイト選びで重要視
している。
(建築学科3年)

寿司屋で働いているが、
商品名が書いてある
札のフォントを観察してしまう。
(視覚伝達デザイン学科2年)

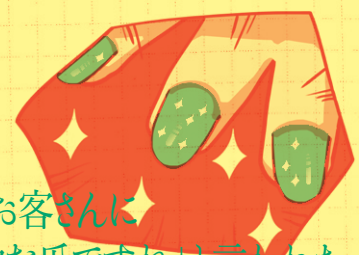
レジ中暇な時間に向かいの店の看板の
文字組が変だな〜と気になって
頭の中で文字組を整えてしまう。
(デザイン情報学科3年)

接客業なのですが、観察癖がめっちゃ
めっちゃ出る。(映像学科2年)
来たお客様の服装や装飾品を見
ているという物語を想像してしまう。
(視覚伝達デザイン学科3年)



バイトしていたレストランの壁に絵を描いてと頼まれて
かなりでかい壁に絵を描いた。あとメニュー表も
作った。(デザイン情報学科3年)
バイト先の宣伝看板を描く。(基礎デザイン学科2年)

始めたての頃入力ミスで桁をひと
つ増やしてしまい、ありえない量の
錠剤を処方しそうになった。
(工芸工業デザイン学科3年)



接客業でお客様に
「近未来的な爪ですね」と言われた。
緑の上に金のラメのネイルをしていた。
(視覚伝達デザイン学科3年)

ベルトコンベアから流れて
くる桜餅を8時間くらい
葉っぱに包んでいたら、脳
裏に自然と桜餅が流れて
くるようになった。
(視覚伝達デザイン学科2年)

バイトやりすぎて
留年した。くれぐれも
バランスが大事…
気をつけて！
(視覚伝達デザイン学科2年)

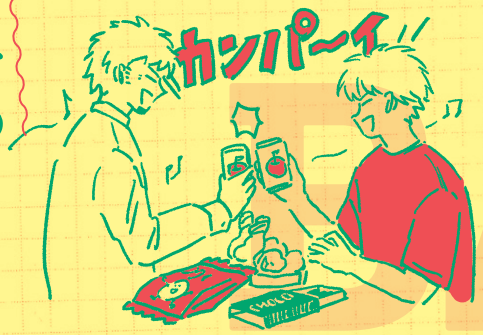


親子連れの会計中に2歳児くらいの女の子が
泣きながら店の外へ走って行っちゃって、
お母さんがお釣りを受け取らず走って女の子を
捕まえに行ったので、私はお釣りをトレーに乗せ
お母さんを店の外まで追いかけた、春。
(視覚伝達デザイン学科2年)

たまたま
キッチンの
仕事へ。
ブイヨン
の頭から被った。
(視覚伝達デザイン学科2年)

幼児16人の
着替えの手伝い。
(芸術文化学科1年)

Barなので知らないカ
クテルを言われてもわ
かったフリをしてケー
タイで調べる(笑)。
(建築学科2年)

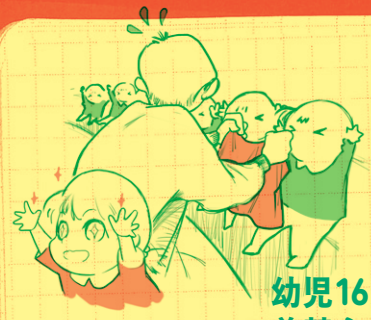


1年生のときオンライン授業で
知り合った人とたまたま同じ
バイトに同じ時期に入った。
(視覚伝達デザイン学科2年)

すごく忙しい日でシェフが
賄いを作る気力がない時は、
閉店後に近くのコンビニでご飯に
お菓자에ジュースにと買ってきて、
爆音で音楽流して2人でパーティーを開く。
(工芸工業デザイン学科3年)

なんとなくやってみたくらいの気持ちで
学童のアルバイトをしたら美大に通ってい
ることが本部で噂になってしまい、新設す
る学童の看板を作ってほしいと頼まれた。
よくよく聞いたら勤務中の給料しか出せ
ないから看板制作にお金は出せないと言わ
れ断った。こういうの断るのが大変だなと
思った。(視覚伝達デザイン学科3年)

山崎パンの工場で働いた時5時
間ぶっつけで母のヘタを切り続
けた時は死ぬかと思っ
た。(視覚伝達デザイン学科3年)



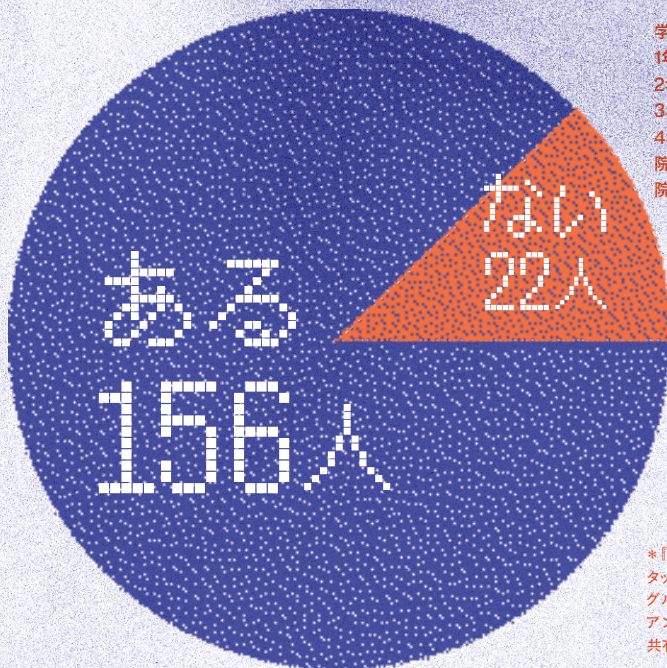
アルバイトでの
おもしろエピソードや失敗談を教えて！

ムサビ生とアルバイト

特集

Q

ムサビに入ってから
アルバイトをしたことが
ありますか？



回答者数 178人

学科
日本画 10人
油絵 15人
彫刻 3人
視デ 51人
工デ 38人
空デ 2人
建築 22人
基礎デ 3人
芸文 11人
デ情 10人
CI 2人
映像 4人
院 7人

学年
1年 15人
2年 71人
3年 83人
4年 2人
院1年 5人
院2年 2人

*『mauleaf』学生スタッフが学科のLINEグループや知人宛にアンケートフォームを共有し、回答を収集。

学業に制作にと多忙な日々を送っているムサビ生。それに加えて、
大学生が多くの時間を費やすものといえば「アルバイト」です。

そういえば、みんなどこで働いているんだろう？
やっぱり変わったバイトをしている人が多いのかな？

そんな素朴な疑問からこの企画は生まれました。

まずはバイトに関するアンケート調査を行い、その結果を分析。

さらに気になる学生へのインタビューを通して、ムサビ生とバイトを深掘りしていきます。

そこから見えてくる、意外な真実とは!?

mauleaf 29

2021.11

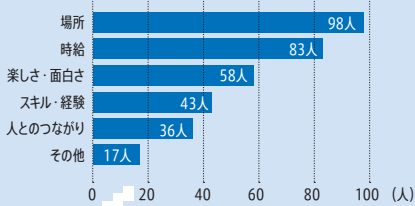
TITLE	PAGE
表紙	
表2	アルバイトにまつわるアンケート その1
	まとめ=石崎美智 イラスト=正橋朋子+李 雨濃
目次	2
特集： ムサビ生と アルバイト	変わってないようで変わってる？ 数字で見るムサビ生のアルバイト
	文=井上 柊 イラスト=斎藤 詠
座談会 アンケートでわかったムサビ生の生態	取材・文=武藤結実
	7
みんなは？ あなたは？ アルバイトの見つけ方	取材・文=堀 雅菜 イラスト=斎藤 詠
	8
初心者にもおすすめ！ 学内アルバイト	取材=堀 雅菜+井上 柊 文=堀 雅菜
	9
わたしのアルバイト01 作家と額縁制作、 両立してこそ伝えられる文化がある	取材・文=石崎美智
	10
わたしのアルバイト02 美大生×デザイナー×アーティスト× 美術予備校講師。 好きなことを全力でやり抜きたい	取材・文=内田有希乃
	12
留学生のアルバイト事情 —中国人留学生3人の座談会	取材・文=スウ・シウ
	14
OB・OGインタビュー 大人の背中	木本梨絵
	取材・文=武藤結実
	16
気になるあの子 お知らせ	へ hitoyane
	取材・文=井上 柊
	18
	19
表3	アルバイトにまつわるアンケート その2
	まとめ=石崎美智 イラスト=正橋朋子+李 雨濃
裏表紙	

mauleaf vol.29 2021年11月12日発行

発行 武蔵野美術大学 〒187-8505 東京都小平市小川町1-736 WEB： https://www.musabiac.jp	編集ディレクション 酒井博基 (d-land) 平林理奈 (d-land)	編集 『mauleaf』学生スタッフ	芸術文化学科 石崎美智 (2年) 井上 柊 (1年)
	アートディレクション 加藤賢策 (LABORATORIES)	造形学部 視覚伝達デザイン学科 堀 雅菜 (2年)	大学院 空間演出デザインコース スウ・シウ (院2年)
企画 武蔵野美術大学 広報チーム TEL：042-342-6038	デザイン 守谷めぐみ (LABORATORIES)	工芸工業デザイン学科 武藤結実 (3年) 内田有希乃 (2年)	撮影 『mauleaf』学生スタッフ
	印刷・製本 株式会社アトミ		※本誌掲載記事の無断転用を禁じます。

06

アルバイト選びで重視することは？
(複数回答可)



バイト選びでは「時給」が重視されると予想していましたが、「場所」の割合が上回りました。授業や課題、制作など、なにかと忙しい美大生。「バイト先と自宅間の移動距離を考えて、近場を選ぶ」という回答が多くあったことから、時間を効率的に使うために距離を重視しているようです。



変わってないようで
変わってる？

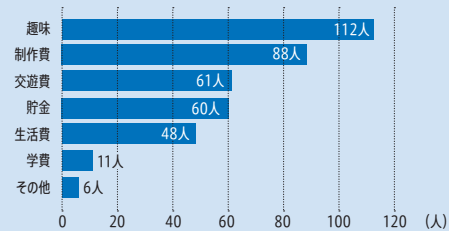
数字で見る ムサビ生のアルバイト

ムサビに入ってからバイトをしたことが「ある」と答えた人、「ない」と答えた人のそれぞれに質問！「ある」人には、職種や月収といった基本的なことからバイト選びのこだわりまで、様々な視点からアンケートを取りました。一方、「ない」人にはバイトをしない理由などを調査。結果を分析してみました。

文＝井上 悠 イラスト＝斎藤 諒

06

アルバイト代の主な使い道は？
(複数回答可)



好きなことをして将来のために
バイト代の使い道を聞いたところ、「趣味」がトップ、次いで「制作費」という結果に。自由回答では「展示に行くための交通費」「スニーカー」「画集」「オタク活動」など、「趣味」の具体的な内容が見えてきました。今後のデザイン業の仕事環境を整える費用「や」カメラや機材などを使うことで制作効率が上がった」という回答もあり、制作環境の整備や機材に使う人も多いようです。一方で「大学院に行くための貯金」など、将来のために貯めている人も。ほかに「お金を貯まってく様子をみるのが好き」という人や「ウォーターサーバーに使う」という珍回答（？）もありました。

「アルバイトをするなかでつい出てしまう『ムサビ生っぽいなあ』と思う癖やこだわり」を自由回答で聞くと、バイトで扱う商品のパッケージのデザインやフォントを見てしまうというコメントが多くありました。そのほか、「お惣菜の盛り付けにこだわってしまふ」「棚出しするときに細かい見えやすさみたいなことをこだわってしまふ」という回答も。どんな作業でも美しさを追求したり、モノを観察してしまうところは美大生らしいですね。また、看板の絵やPOP、メニューを描くなどの仕事を頼まれるという人が多く、美大生の「あるある」なのかもしれません。

美大生ならではの
こだわり



01

実家暮らしですか？



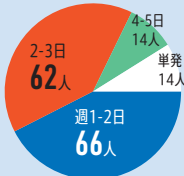
実家暮らしは
心に余裕がある？
156人中100人が実家暮らし。家賃や生活費がかかるひとり暮らしの人のほうがバイトをしているイメージでしたが、意外な結果になりました。もしかしたら、実家暮らしで自分のほかに家事をしてくれる人がいる場合、時間と心に余裕ができてむしろバイトがしやすいのかもしれない。



ムサビに入ってから
バイトをしたことが
「ある」と答えた人



に聞きました！



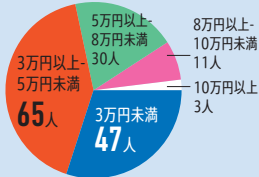
出勤頻度は？

出勤頻度は？

短期集中で働く
あるWEBサイトの調査では、大学生のバイトの月収は約半数が「3万円未満」という結果が出ていました。今回の結果を見ると「3万円未満」と答えた人は47人（全体の30.1%）なので、大学生全体よりも美大生のほうが稼いでいると言えるのではないのでしょうか。
一方、週の出勤日数の1位は「1-2日」と少なめ。長期の休みを利用したり、週末に集中的にバイトをしている人も多く予想できます。なかには「早朝に働いて午後から学校に行く」「家から一歩も出ない日をつくる」などメリハリをつけて働いている人も。ただ、「シフトを入れすぎて留年した」という回答もあったので気をつけたい……！

03

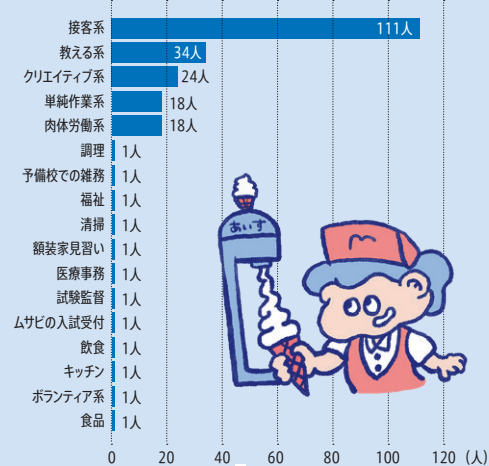
平均月収は？



02

職種は？(複数回答可)

※「調理」以下は「その他」を選択したうえでの自由回答



接客系がダントツで人気
「クリエイティブ系」が多いと思いきや「接客系」がトップ！経験値を上げていく目的で、あえてデザインやアートとは離れたバイトを選んだという人もいました。例えば接客で「人と話すことが得意になり、お客さんへの対応力やプレゼン力をつけた」など、デザインスキルやクリエイティブ力は少し異なる、社会で求められるスキルを身につけているようです。

ない

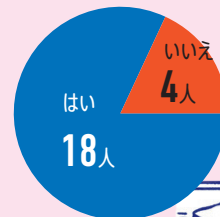
ムサビに入ってから
バイトをしたことが
「ない」と答えた人

22人

に聞きました!

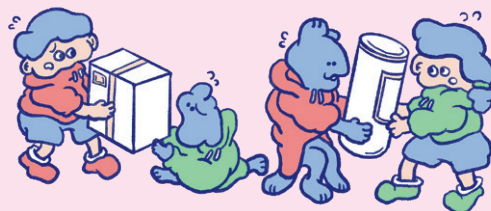
02

今後アルバイトを
したいですか?



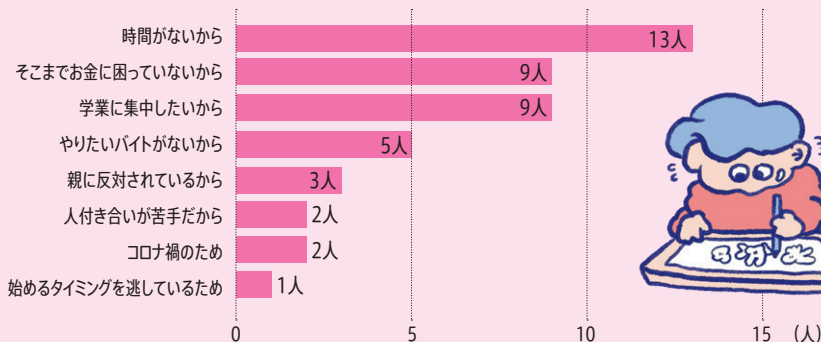
01

実家暮らしですか?



03

アルバイトをしない理由は?
(複数回答可)



番外編

理想のアルバイトは?

アンケートに答えてくれた全員に「理想的なバイト」を聞いてみると、絵を描いたりものづくりをしたりできるバイトがしたいという回答が多くありました。実際は世の中のバイトには接客系が多く、美大生のスキルを直接活かせるクリエイティブ系の仕事は多くありません。でも、どんな仕事内容であっても、そのなかにクリエイティブな視点を見出しているのはムサビ生の特性ではないでしょうか。

優先することは人それぞれ

「バイトをしたことがある人」とは反対に、実家暮らしではない人が上回りました。また、バイトをしない理由としては「時間が足りないから」と答えた人が最も多く、「そこまでお金に困っていないから」と「学業に集中したいから」が続きました。ひとり暮らしの人はひとりりで家事をこなさないとけないですし、バイトに時間を割くのが難しいかもしれません。一方で、学生だからこそ学業に専念したい、お金に困っていないというのは、一人ひとりの価値観が影響しているところだと思います。

座談会

アルバイトでわかった
ムサビ生の生態

クリエイティブ系は
意外と少ない

スウ みんなアンケートを取る前と取ったあとで「ムサビ生とバイト」のイメージは変わった?

武藤 クリエイティブ系のバイトが多いと思ってたけど、案外そうでもなかった。

井上 意外と接客系がダントツだったね!

武藤 これって、ムサビに入る前は、美大生は髪が派手だったりする人ばかりだと思ってたけど、入って見たらそんなこともなかったっていうのと同じような感覚かも(笑)。ギャップを感じたなあ。

スウ たしかに美大生って外見はそこまで変じゃないよね。話してみると変なんだけどもね(笑)。

石崎 でも、ふつうの接客でもPOPを描くのを頼まれたりとか、**美大生だからこそ求められることもけっこうある**みたい。

武藤 あとは、みんなずっと制作のことが頭にありながらバイトをしている印象。例えば

ば予備校の講師をしている人は生徒の作品からインスピレーションを受けたり、バイトと制作、別々だけどうまく自分のなかに取り込んでいるみたいだね。食器洗いとかお客さんとのコミュニケーションとかからもなにかを得ようとしているように感じた。

スウ メガネショップでバイトしてる人の「お客さんにレンズの説明をする経験が、プレゼンで前に出て話すときに役に立っているなと感じる。」っていうコメントが印象的だったな。**バイトでの経験をほかのことも役立てていていいよね。**

井上 たしかに接客でお客さんに商品をアピールするのと、プレゼンで作品の魅力を伝えるのって似てるところがあるかも。

石崎 **一見ふつうの作業のなかにクリエイティブを生み出そうとするおもしろさ**みたいなのは、考察してみても感じたよね。

武藤 文字組とか、学校で学んだことをバイト中も意識しちゃうっていうコメントも多かったね。いろんなものを見て、考えて、またそこからインプットされたことに対する考えが生まれてくる。ムサビ生の脳

『maueat』学生スタッフがアンケートの結果について考察。回答者から寄せられたコメントも見ながらムサビ生の生態を深掘りしてみよう!ということで、学年もバイト事情もバラバラな4人で座談会を開きました。

取材文:武藤結実(工芸工業デザイン学科3年)

内はそんなイメージ。

スウ もはや職業病って感じだね(笑)。

石崎 わたしはバイトすると学校のことが大変になっちゃうそうだかららしい派だったけど、みんなうまくバイトと両立してるんだな、やれるんだってことに気づけたな。

井上 バイトしない派だったんだ!

石崎 しても単発派だったけど、シフト制のバイトもいいのかなって思えてきた。

頭の切り替えになる

石崎 バイトをすることで時間のマネジメントの仕方にもよる。

武藤 「バイトがあるからスケジュールを立てられる」とか、「バイトをするぶん、制作はこの時間のなかで頑張ろうと集中してできる」という意見もあったよね。

スウ ひょっとすると、バイトがいい気分転換になっている人もいるかもと思った。あえて**制作のことを考えない時間をつくって頭を切り替えたり**、時間の使い方にメ

MEMBERS

武藤結実
工芸工業デザイン学科3年
肉体労働系&接客系を
合わせたバイトをしている。

石崎美智
芸術文化学科2年
単発バイトのみ経験あり。

井上 終
芸術文化学科1年
単発バイトのみ経験あり。

スウ・シウ
大学院空間演出デザインコース2年
約2年間、教える系の
バイトをしている。

リハリをつけるっていう意味でも、バイトと制作はつながってるんじゃないかな。

武藤 ずーっと時間があっても、ただ消費しちゃうだけだったりするよねえ。

井上 1日中制作に向き合うより、バイトをして**一回制作から離れるほうがグッと集中できる**のようになって思った。

石崎 っていうことはもしかして、バイトをしてないわたしよりもバイトをしている人のほうが制作が進んで……?

一同 (笑)。

スウ たしかに、時間がある制作が進むとは限らないかも。

井上 クリエイティブにおける「時間と質は比例するのかわかんない……難しいね。」

石崎 おもしろい視点だね。寝る時間は生産性を上げるための時間、パフォーマンスを高めるために必要な時間なんだっていう考え方と同じ。**質と時間って必ずしも比例するわけじゃないもんね。**

武藤 一旦時間を置くと、**作品と自分の考えを客観視できる**。そういう意味でも、バイトと制作って深い関係なのかも!

みんなは？

アルバイトの見つけ方

あなたは？

どうせなら条件のいいバイトがしたい！でもなかなか見つからない……。ここでは、ムサビ生が行っているリサーチ方法や活用したいツールについて紹介します。

取材文：堀雅菜 イラスト：斎藤諒



研究室から情報を発信

学科内のバイト情報は研究室が運営しているTeamsのチームから。学科の専門スキルを活かせるバイトや、卒制の手伝い募集などのお知らせがときどき入ってくる。LiveCampusでは配信されない情報も多くあるので、アプリなどでマメに確認するのが◎。



学内バイトが充実

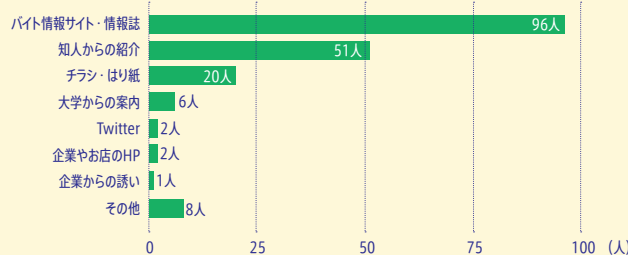
ムサビのLiveCampusでは学内バイトの情報が配信されることが多い。単発のものも多くあるので、課題や制作で忙しい人にもおすすめ。また、学内バイトは友だちと一緒に働けるのもメリットのひとつ。ほかのお知らせメールに紛れて見落とさないよう、定期的にチェックしよう！



美術・技術系はここから

学科や学年、あるいはほかの美術も含めたLINEグループでは、クリエイティブ系のバイト情報が多く入ってくる。他学科の制作の助っ人募集や、メンバーやその知り合いが働いているデザイン事務所や予備校の空きが出たなど、人づてならではの貴重なバイトやおいしいバイトも。大人数のグループに入っておくと、より情報をゲットしやすいかも。

アルバイト情報を
どのようにして知りましたか？（複数回答可）



情報サイト・情報誌以外の手段も！

△サビに入ってからバイトをしたことがある人に、そのバイトの情報をどのようにして得たか聞いたところ「バイト情報サイト・情報誌」という回答が圧倒的に多数でした。一方、回答のなかで注目したのは「知人からの紹介」と「大学からの案内」。特にクリエイティブ系のバイトをしている学生の場合は、知人からの紹介やムサビから発信される情報が入り口になっていることがわかりました。クリエイティブ系のバイトは世の中に多くはないため、情報サイトや情報誌に掲載される情報が少ないのも一因かと思えます。一般的なバイトよりもクリエイティブなバイトがしたいけど、なかなか見つからない……という人は、情報が発信されているいろいろなオンラインツールや、大学からの案内をチェックしてみてください。

入試時の入構受付

学内アルバイト

初心者にもおすすめ！

卒制展の受付

△サビや研究室が募集している「学内バイト」。他学科の学生と交流できる、単発が多いので気軽に働けるなどのメリットがあり、これからバイトを始めたい人にもおすすめです。学内バイトをしたことがあるふたりのムサビ生にお話を伺いました。

取材：堀雅菜・井上 梓 文：堀雅菜

教室整備



工芸工業デザイン学科2年
本多恵さん

教室整備

卒制展の設営・撤収

1 学内バイトをしようと思ったきっかけは？
もともとしていたバイトの給料がコロナで激減し、焦りを感じたためです。また、先輩や後輩、他学科の人と交流したいと思ったからです。

2 バイトの内容は？
教室整備のバイトで、主に教室の掃除、机などの移動を行いました。

3 大変だったことは？
大変だったことは？

階段を使って離れた場所に机を運ぶなど、体力のいる作業が多かったことが大変でした。

4 学内バイトのメリットは？
共同作業が多いため、普段は関わらない人と交流できることがメリットだと思いました。

5 また学内バイトをしたいと思いますか？
はい、またやってみたいです！

教室整備



芸術文化学科1年
福井幹大さん

展示会の設営補助

民俗資料室の受付案内・画像整理

1 学内バイトをしようと思ったきっかけは？
それまでバイト経験がなく、初めの一步として学内のバイトをしたいと考えました。また、自分がほしいものは自分で稼いだお金で買いたいと思ったからです。

2 バイトの内容は？
共通彫塑の授業の準備をするバイトです。まず11号館にある「粘土桶」というコンクリートのプールに粘土が溜まっているところから、大きなスコップで粘土を掘り出しました。それから、アングル彫塑の土台として使う機械油まみれの鉄板126枚を運び出し、バケツリレー形式で2階からおろしました。

3 楽しかったことやよかったことは？
いつもしているパソコン作業とは違って全身を動かすので、運動不足の解消になりました。また、トラックの荷台や巨大なエレベーターに乗れたり、ふだんは立ち入り禁止の部屋に入れたり、非日常体験ができたところも良かったです。お金を稼げるだけでなく、ムサビを体験できるというか……知らないスポット、未知の領域に踏み込めることが楽しかったですね。

オープ

入試連絡員

入試作品の整理

オープンキャンパスの運営

無数にある工程のすべてに携わる

—— いつものような作業をしているのですか？

まず、実は「額縁屋」というのもいっぱい種類があるんです。例えば画材屋さんの額縁コーナーのように既成の額縁を売っているお店もあれば、額縁をいちからつくって売っているところもある。僕が働いているのは後者のスタイルのお店で、すべて手作業でつくっています。

作業工程としては、まず材料となる木を製材し、加工。それをカットして額縁の形に組み、下地を塗り、その上から金箔や絵具などを使って塗装をして仕上げます。額縁屋の仕事はそこ

で終わりはなく、そのあとさらに「額装」の作業があるんです。額縁に作品をセットして裏板を付け、金具で留め、それを箱に入れ、て梱包する。梱包ひとつにしても、けっこう手間がかかるんですよ。

—— 山口さんが主に担当されている作業はあるのでしょうか。

特に決まっています。このバイトを始めた当初は師匠がいて、その方は塗りの仕上げの専門でした。だから僕も、最初は仕上げの勉強ばかりしてました。そのあとと師匠が独立したこともあり、仕上げ以外の作業もできるようになっておいたほうがいい



作家と額縁制作、両立してこそ伝えられる文化がある

数あるバイトのなかでも、アートに関わるバイトをしているのが油絵学科3年の山口大介さん。その業務は「額縁制作」です。バイトの内容をはじめ、額縁制作と向き合っていくなかで生まれた作品制作や今後の生き方に対する考え方の変化について語っていただきました。

取材・文＝石崎美智（芸術文化学科2年）



「自分がつくくり出した仮想の絵画空間」なわけですが、でもキャンパスの側面には、布の切れ端が出ていたり、釘が刺さっていたり、現実的な物質がある。それが見えてしまふと、絵画空間が壊されてしまうので、僕はキャンパスの側面は額縁で隠すべきだと思うんです。そういう考えで、高校のときは自分で額縁をつくっていました。

—— その後、どのようにいまのバイトへとつながっていったのでしょうか？

大学に入って、制作活動が続いていくためにバイトを探していたんです。「どうせならこれからの作品制作に関わるバイトがしたい。美術のスキルアップになるようなものがいいな」と思いました。でも、ふつうに調べてもいい情報が出てこなかったの。「今日は諦めよう」とTwitterを開いたら、油絵学科の諏訪教授が、額縁屋が投稿した「額装家見習い募集」というツイートをリツイートしていたんです。一度は見逃したのですが、1週間後同じツイートをまた流れてきて、直感で「やっぱり気になるな」と思って応募しました。それが、いま働いている「マルツカアートスタジオ」なんです。

迷いつつ、この工房に来て面接を受けたけど、なんでも額縁屋もあるけど、なんでうちに来たの？と聞かれ、内心「そんなこと言われても、額縁はともかくそれをつくる仕事に興味があったわけじゃない……」と思ったのですが、画材屋で売っている既

額縁は作品の「自分がつくくり出した空間」を守るもの

—— 額縁に興味を持ったきっかけを教えてください。

僕は、高校生のときから額縁という文化について考えていました。高校は美術科だったから、木工作業を経験したことで、額縁の構造には様々なバリエーションがあることも知りました。ときどき海外の額縁を見る機会があるのもいいですね。国によって材料や形状のつくり方が違うんです。土台となる板にいろいろな形を乗せて形状をつくって

いたり、大きな彫り模様を針金で固定していたり、そういうのを観察するだけでも楽しいですね。

—— このバイトならではの面白さはあるんですか？

いろんな絵を間近で見られることでしょ。うか。アクリル板のない状態で見られるのは驚きです。絵の裏面を見ることもできますしね。藤田嗣治や熊谷守一といった有名作家の作品を額装してほしいという依頼もありましたし、森本草介の絵を額装しているところを見る機会もありました。

作家としてのメリットはそういうところですが、額縁屋としてはすべてが「おもしろみ」です。

さらに、木工作業を経験したことで、額縁の構造には様々なバリエーションがあることも知りました。ときどき海外の額縁を見る機会があるのもいいですね。国によって材料や形状のつくり方が違うんです。土台となる板にいろいろな形を乗せて形状をつくって

目指すは絵描きでもあり額縁屋でもあること

—— 額縁制作を、卒業後もバイトもしくは仕事として続ける予定はありますか？

続けます。ただし、作家だけ、額縁屋だけではなくて、両方やりたいんです。この考え方って保険をかけていると思われがちなんです。僕は両方本気。わざわざ50…50に分ける必要もなく、ほかのところを削って100…100でやればいいじゃないかと思えます。というのも、作家としての自分と額縁屋としての自分をまったく別として考えているんですよ。目指しているのは、「額縁屋でバ

—— 作家さんにも額縁について伝えるという、額縁の文化をつないでいくということですね。

そういうことです。額縁屋に対しても、作家に対しても伝えていきたいことがある。両方に自分の考えを伝えやすい状況をつくりたいんです。そうなるって100…100でいくしかないですよ。

最近、卒業制作が終わるころに個展を開くという目標ができたので、それに向けて作品をめちゃくちゃ描いています。美術館にあるギャラリーで開催したいと考えているのですが、展示室がすごく広いので最低でもあと30点は描かないといけないんです。それにプラスして額縁もつくらないといけない。やることは山積みですが、あと約1年あるのでがんばります。

—— 額縁屋に入ってから、ご自身の作品への影響はありましたか？

ありましたね。それまでは、額縁というF50やF40といった定型サイズの既製品しか知らず、それ以外のサイズでオーダーできるなんて思っていました。自分でいろんなサイズの額縁がつくれるようになって、そうすると作品自体のサイズも自由に選択できるようになるんですよ。



好きなことを全力で

わたしの
アルバイト 02

美大生 ~~デザイナー~~ ~~アーティスト~~ ~~美術予備校講師~~

制作は集中的に!!

工芸工業デザイン学科インテリシアデザインコース3年の鶴田朱里さんは、デザインなどのアート関連の仕事とアーティスト活動、さらに美術予備校講師のバイトをしながら学生生活を送っています。多忙なか、学業とそのほかの活動をどのように両立させているのか、お話を伺いました。

取材・文 内田有希(工芸工業デザイン学科2年)

人とのつながりから活動が広がる

——アートの関係した仕事はどんなことをしているのですか？

グラフィックや空間デザインの仕事が多いです。今年は、3月に開催されたアートの見本市「アートフェア東京2021」にスタッフとして参加しました。アートフェア東京には国内外のいろんなギャラリーが出演しているのですが、それとは別にアートフェア東京がキュレーションした「Future Artists Tokyo 2021」というブースがあります。わたしは、デザイナーとしてそのブースのグラフィックデザインなどを担当しました。また、空間構成も担当し、搬入のときに作品の配置や来場者の導線をどうするかといったことを考えましたね。

——依頼されて仕事をするのが多いと聞きましたが、どうやってアートの仕事を獲得しているのですか？

大学受験のときに通っていた予備校の先生の紹介で立体作家さんのアシスタントを始めたときに紹介して



——学校の課題もあるなかで、アートの仕事に加えアーティスト活動、美術系予備校講師バイトをされていますが、時間の使い方が気になります。なか大事にしているポイントはありますか？

忙しくなり始めたのは1年生の冬ごろでした。当時はいまとは違って座学の授業も多くあったので少し大変でしたね。2年生になると多くの授業がオンラインに切り替わったので、通学にかかっている1時間半の間にスマホで座学の授業を受けたりと、移動時間を活用していました。

スケジュール管理はアナログ派

——ひとりだけ違う時間軸で生きているみたいですね(笑)。時間の管理がアナログであることにこだわりはありますか？

スマホのメモ機能などではなくルーズリーフを使うのは、結局アナログで持っていた方がわかりやすいからです。それに、スマホを出して、ロックを解除して、アプリを開いて……という作業よりも、カバンのすぐ取り出せ



《白昼夢》2020年

一番やりたいことに集中するために、力の配分を調整したり優先することを選ぶようにしています。

フィールドワークへの興味

——展示をするときに常に意識していることはありますか？

展示にかぎらず、人が見てくれないと意味がないと思っています。展示室の前を通りかかった人の中に入ってもらおうと、実はハードルが高いこと。同じようにインスタでもスルーされるのはよくあることと、それを回避するにはわざわざ見に来た

——展示をするときに常に意識していることはありますか？

集大成となる卒業展でやりたいことは決まっていますか？

いまの時点では、フィールドワークを通じた作品づくりを考えています。フィールドワークに興味を持ったきっかけは、1年生の終わりに民俗学部の加藤幸治教授と出会ったこと。知らない場所に行つて、観光客としてではなく人々の暮らしに入り込みながら地域性を知っていくことが、自分のやりたいことにつながるんです。今後調査する地域をひとつ設定したうえで、4年生になったら少しずつ現地に出向いてフィールドワークを実施し、ひとつの作品として形にしていきたいと考えています。地域と関わりを持ったアート展の代表的なものにはトリエンナーレやビエンナーレなどがありますが、ゆくゆくはアーティストとしてそれらに出演することを目標にしています。



「Future Artists Tokyo 2021」ポスター 2021年

——忙しさが伝わってきます……！ 鶴田さんの motto のひとつは「ダブルタスクでもフルパワー」と聞いたのですが、これもやはり大事なポイントですか？

そうですね。仕事やバイトが忙しいことを理由に大学の授業を疎かにはしたくないと思っています。授業の成績もただ単位が取ればよいとは考えず、自分の糧になりそうな課題やもしろい課題を成績関係なくとことんやりたいという気持ちがあつて。そういうのを含めて「フルパワー」は大切にしています。もちろん常にフルパワーを出せるわけではないので、一番やりたいことに集中するために力の配分を気にしたり、優先して取り組むことを選ぶようにしています。

——活動をいくつもかけ持ちするなかで、失敗してしまつた経験はありますか？

たくさんありますよ。課題がどうしても終わらないとか、3日間絶対に寝られない予定を組んでしまつたとか



やり抜きたい

中国でシフト制のバイトをする
大学生はほんとうにいい

「おふたりとも、留学生のなかではバイト経験が豊富だと思えます。いままでどんな仕事をしましたか？」

「わたしはコーヒーと輸入食品の店「KALDI」で長い間働いていました。主な仕事内容は品出しとお客さんへの声かけでしたね。その後、日本人の友だちの紹介で入ったのが猫カフェの「MOCHA」。猫マンガ、ゲームに没入の日々ですごく癒されました。いまは美術予備校で色彩構成の指導をしています。」

「初めてのバイトは家電量販店でプリンターを販売する派遣バイトでした。その次は、鷹の台キャンパスにあるペーカリー「エミユウ」でのレジやパンのパッケージング。4年生のいまは学業が忙しくなったのでシフト制のバイトを辞め、この前バイト代でずっとほしかったロードバイクを買ったのでときどきUber Eatsの配達をしています。お金を稼ぎながら有酸素運動もできて一石二鳥です！」

「日本の大学生は当たり前のようにバイトをしているけど、中国でバイトをしている大学生はあんまりいないですよ。学費や生活費を両親にサポートしてもらう人が多いですし、そもそも大学生が働きやすいシフト制のバイトも少ないように感じます。留学生が日本でバイトをする際はいろんな制約※もありですが、おふたりはどんな理由で始めましたか？」

「わたしは高校卒業後、日本に来るまではバイトの経験がありませんでした。来日後の最初の1年間も、受験の準備に集中したかったのではありません。考えた結果、アルバイトを始めましたが、それでも学業優先で、余裕があるときだけ。わたしにとって、バイトは仕事体験や時間つぶし、お小遣い稼ぎという位置付けですね。」

「わたしは実家になるべく負担をかけないように、少しでも生活費を稼ぎたいと思ってバイトを始めました。自分でお金を稼ぐことにすごく達成感を感じるので、楽しく続けられています。」

「わたしは大学院から来日してムサビに入ったの

リンさんがKALDIの
バイトで描いたPOP。



で、学部の留学生に比べて日本で学生生活を送れる期間が半分くらいしかありません。短い期間で日本語をうまく話せるようになるための近道はバイトだ！と思ひ、バスターのお店の接客に応募しました。そういえば、その面接

のときは面接官も外国の方で……ふたりとも日本語が微妙でお互いの話を理解できず、結局仕事を逃してしまいました(苦笑)。

「わたしはWEBでバイトを探していたとき、一気に30カ所に応募メールを送ったことがあったのですが、もらった返信はたったの1通。「外国人不可」ということが応募要項にはつきり書かれていないケースも多くて、留学生が日本でバイトをすることの壁を感じました。」

留学生のアルバイト事情

中国人留学生3人の座談会

ムサビに通う留学生はどんなバイトをしているんだろう？
者が、ムサビの中国人留学生83人にアンケートを取りました。その結果、8割の人は以前、あるいは現在バイトをしたことがあると回答。職種は教える系と接客系が圧倒的に多いことがわかりました。今回は留学生のバイト事情にもっと迫るため、中国人留学生3人で座談会を実施。バイトで感じた日本独特の文化や、印象的なエピソードについて話しました。

取材 スウ・シウ 大学院空間演出デザインコース2年生

職場で感じた「日本人らしさ」

「日本人はあいさつを大事にしますよね。前にコンビニバイトの研修で元気な声で接客するように言われたんですが、なんだか恥ずかしくて自然に大きな声を出せず、すごく苦労しました。」

「日本独特の文化なのかもしれないですね。わたしはエミユウで働いていたと言いましたが、もともとは常連客だったんです。毎朝、熱々のコーヒーとパンで1日を始めるのが好きで。常連客からバイトになるのも中国ではあまり聞かないので、日本ならではの文化かもしれません。エミユウのスタッフは全員女性で、いつも妹や娘のように接してくれて、すごく温かい職場でした。母親に報告するよりも先に彼氏を紹介したこともあったし(笑)、いつも



リンさんがUber Eatsの配達をするときの装備。

「ガールズトークをしていましたね。」

「KALDIでは、陳列をキレイに保つために店内を回るように言われていました。商品を足す作業もずっとしていましたし、商品カードを同じ向きに揃えなきゃいけないルールもあります。そんなふうに完璧主義なところが日本人っぽいなと思っていました。」

「いまふと思ひ出したんですが、エミユウの壁に犬の写真のカレンダーがかかっていた、スタッフのおばさまが全部の犬に名前をつけてたなあ。「モモ」とか「丸ちゃん」とか。日本のドラマで出てきそうなペットの名前だ！ってすごく驚きました。」

「リン おばさんが棚を拭きながら「丸ちゃん」を眺めるシーンを想像すると、完全に朝ドラですね！」

「失敗談もたくさんありますが、いろいろ思い出ができるのがバイトのいいところですね。留学生活に彩りを添えてくれるもののひとつとして、バイトって貴重な時間なんだなと思いました。」

大学院空間演出デザインコース2年生。
教える系バイト歴2年。



李雨濃
リ・ユウ

鄒詩雨
スウ・シウ

空間演出デザイン学科1年生。
接客系を経て、
現在は教える系のバイトをしている。

林文萱
リン・ブンケン

※留学生が日本でバイトをするためには「資格外活動許可」を得なければならない。また、勤務時間は原則として1週間あたり28時間以下。職種の制限もある。

座談会を終えて
国の文化や習慣の違いで、日本に来る中国留学生のほとんどはバイト未経験。それでも多くの留学生がバイトにチャレンジし、お金に対する価値観や人生観にまで影響を受けることがあるんだと感じました。もうひとつ思ったのは、ムサビに通う留学生同士がバイトについて共有したり、相談したりできる場があったらいいなこと。彼らの本音をもっと聞きたいですし、日本人学生のみならずにも知ってもらえたらと思いました。

OBOG
インタビュー
大人の背中過去を肯定するために
死ぬ気で頑張っている。
木本梨絵

きもと・りえ

1992年生まれ。株式会社HARKEN代表。武蔵野美術大学非常勤講師。業態開発やイベント、ブランドの企画、アートディレクション、デザインを行う。グッドデザイン賞、iF Design Award、日本タイポグラフィ年鑑等受賞。
https://harkenic.com/

空間演出デザイン学科を卒業後、「Soup Stock Tokyo」などを運営するスマイルズにデザイナー志望で入社した木本梨絵さん。初めは店舗に配属され、1年半後にデザイナーになり、その1年後には同社の最年少クリエイティブディレクターに就任したといえます。やりたいことを叶えるために、どのように道を切り拓いていったのでしょうか？ 学生時代のことから、独立したいま仕事で大切にしている視点まで、様々なお話を伺いました。

取材先：武蔵野美術大学工業デザイン学科3年

——スマイルズでは最初「Soup Stock Tokyo」などの店舗スタッフとして働いていたと聞きました。その間、デザイナーになりたというモチベーションをどのように保たれていましたか？

まず自分ができること、もしくは自分にはできないことってなんだろうと考えました。例えば、当時のSoup Stock Tokyoはメニューが週替わりだったこともあり、お客さまへの説明が難しかったんですね。そこで、お客さまにもっと楽しく説明できるように、スーブのイラストを緻密に描いて、説明文を添えたオリジナルのメニューカードをつくりました。ほかに、母の日に子どもたちに書いてもらうメッセージカードをデザインするなど、季節のイベントにまつわる企画も。通常の店舗業務と並行して、自分にはできないこと、自分のスキルがあつて

こそできることにずっと取り組んでいました。

それらは命じられた業務ではなく自発的にやっていたことです。そうすることで自分の存在意義や自己肯定感をなんとか保っていたのかもしれないと思います。

——1年半の店舗勤務を経験したことについて、現在はどのような感じですか？

正直、あの期間をもっとデザイナーのスキルを磨くことに費やせていたら、少し違ったんじゃないかなという想いもあります。とはいえ、全部自分でやりきる力はつくっていたんですよ。自分で調べる、自分でブレゼンする、自

教えてくれる人が誰もいない
状況だったからこそ、
バイタリティと積極性が
確実に身につきました。

分で企画書をつくる。教えてくれる人が誰もいない状況だったからこそ、バイタリティと積極性が確実に身につきました。過去を肯定できるかどうかは、その後の自分にかかっていると思います。わたしはいま、現場での経験が活かされたクリエイティブや企画ができていくからよかったなって、あの1年半を肯定するために死ぬ気で頑張っている、そんな感じですよ。

——クリエイティブディレクターを生業とするなかで、大切にしている独自の視点や、主軸となっているものはありますか？



誰かの日常にひそむ、ささやかな視点と景色を届ける有料ニュースレター「karpus」の立ち上げから携わり、アートディレクションとロゴデザインを担当。

て、人の話を丁寧に聞くようにしています。もともと誰かのやりたいことを形にするのがすごく好きで、仕事でもとにかくクライアントさんのやりたいことをうまく紐解いて実現させたい。自分への戒めやルールのつもりで、会社名も「耳を傾ける」という意味の「HARKEN（ハーケン）」にしました。

——現在はディレクションやブランディングの仕事に注力されていますが、スマイルズにいる間、自分がやりたいことの方性はどうのように見定めていったのですか？

自分の意思というよりは、周りの人が適

正を見てくれたことが大きかったですね。「木本さんは多分こういうことが得意だから」というふうに、得意なことを伸ばしてくれました。そのときに重要なのが「好き」と「得意」のどちらが大事？というところ。当時のわたしは「好き」が一番大事だと思っていて、一生懸命やっていたグラフィックデザインは好きだけで得意ではなかったんです。一方で、企画やブランディング、つくること、考えること、言葉を紡ぐのは「得意」だった。自分ではそのことにずっと気づかなかつたのですが、上司に「絶対に得意なことを伸ばしたほうがいい」と言われて踏ん切りがつき、「ああ、もうデザインはやめよう」と決心しました。自分が一番得意なことを思いっきり伸ばしたほうが楽しいし、役に立つし、絶対いいじゃんって。その後は、得意なディレクションやブランディングに特化するようになっていきました。そうすると今度は「得意」が「好き」に変わってくるんですよ。なぜなら褒められるし、喜ばれるし、みなさんの反応がすごくいいから。だんだんと得意が大好きに切り替わって、最終的に合致していったような感覚です。

——誰しも、社会でコロコロと転がっているうちに、最適な場所におさまっていくようなことがあるのではないのでしょうか。それがどこなのか自分ではわからなかったとしても、なにに対してもひたすら頑張っているのは自然と導かれていくものなのかなと思います。

——周りの人に気づかせてもらうというのは「耳を傾ける」ことも通じていますね。学生時代についても聞きしたいのですが、木本さんはどんな学生で、どんな学生生活を送っていましたか？

模型を一生懸命つくって、ゼミの課題をひたすらこなす、かなり真面目な学生だったんじゃないかな。忙しくて時間がなかったし、アルバイトには入っていませんでした。アルバイトも本当にやってみたこととを少しだけ。ムサビの美術館の照明に関するバイトや、ゼミの先生だったインテリアダデザイナー、片山正通さんの事務所でデザイナーの仕事を経験しました。

あとは友だちと遊ぶこともすごく大事にしていましたね。そのなかには、いま一緒に

——現役ムサビ生に向けてアドバイスはありますか？

素敵な大人と仲よくなっておくことですね！ わたしが学生のときは、おもしろいと思った先生にはSNSなどでよくメッセージ送ったりしていました。それで多分わたしのことを覚えてくれて、卒業後仕事をいただいたこともありましたね。ほかにもういろんなことを相談したりと、いまでも深くつながっています。

そんなふうに、興味を持った人には学生だから許される「無邪気爆弾」みたいなものを大いに使って（笑）、とにかくつながることがすごく大事。大人だけでなく素敵な先輩や、○○学科のあのゼミ長がおもしろそうとか、後輩でも。ムサビにはおもしろい人がたくさんいるので、ぜひ人とのつながりから世界を広げていってください。



新大久保駅直上にあるJR東日本初のフードラボ「キムチ、ドリアン、カルダモン」(K.D.C.)のネーミングからロゴ、メインビジュアルなどのアートディレクションを担当。

ムサビでの
大事な出会いが、
そのままいまの
仕事に活かしています。

WEB版『mauleaf』

キャンパスでのできごとや展覧会情報も。
WEBで独自のコンテンツを発信中！

紙版『mauleaf』の創刊10年の節目である2020年7月にスタートしたWEB版『mauleaf』。ムサビ生が編集部員をつとめ、クリエイターへのインタビューやキャンパスでのできごと、展覧会情報など、ムサビ生にシェアしたい情報を発信しています。

「あの施設、実はめちゃくちゃ使える」「変わった活動してる学生がいるらしい」「この展覧会は見るべき！」……出発点になるのは、編集部員それぞれの個人的な目線。大きなニュースから小ネタまで、いろんな話題が集まっているので、ぜひご覧ください。ご意見・ご感想もお待ちしております。

▶ <https://www.mauleaf.jp/>

本誌企画の情報求ム!!

特集

特集で取り上げてほしいテーマを募集しています。今号の「アルバイト」のほか、過去には「アニメ」「ファッション」「恋愛」「夏休み」などの特集がありました。「ムサビのこんなことが知りたい!」「こういうことを調査してみたらおもしろそう」など、ジャンルやスケールは問いません。あなたのアイデアをお待ちしています！

気になるあの子

現役ムサビ生の「気になるあの子」をインタビュー形式で紹介しします。すごい、変、怪しい、不思議、素敵……、どんな「気になる」でもOK! 取材をしてほしいムサビ生の情報を待っています。自薦・他薦は問いません。

すべて宛先は、mauleaf@d-land.jpまで。必ず氏名・学科・学年・連絡先を明記してください。

あとがき

編集部員として初めて憧れの紙版mauleafに参加しました！ 今回の特集はバイトでしたが、途中で美大生らしさみたいのが見えて、取材をしていてとても楽しかったです。特に特殊なバイトの存在を知ることができて、いろんなバイトがあるんだな〜って思いました（笑）。今だからそたくさんのムサビ生に手に取って読んでもらいたいです！〈堀〉

mauleafメンバーとたくさん会議をしながら29号を作りあげることができました。mauleafを通していろんな方のお話や考えに触れられたおもしろさはもちろん、そこから読者であるムサビ生にどう届けるかとても難しかったけれど、形になっていくことにとてもワクワクしました！

去年mauleafの発行を見送った分、今号にはとても思い入れがあります。初めての経験でわからないことも多くありましたが、たくさんの方に助けられて今号が形になりました！ ありがとうございます！〈武藤〉

今年は芸術祭も完全オンラインに切り替わり、対面とオンラインの授業が続くなどコロナ対策が前提の大学生活だと思います。慣れてはいますが、つい先日mauleaf編集部員と「学校の帰り道にご飯食べて遊びたいよね」と、コロナとは無関係な大学生活の話で盛り上がりしました。授業と同じく対面を避けてのmauleafの編集作業は初めてのことが多く戸惑いもありましたが勉強になりました。コロナの状況がよくなったら先輩たちに教えてもらった雑談編集会議を私もやってみたいです。〈内田〉

ふだん作品を鑑賞するとき、あまり目に入ることのなかった額縁。それが額装アルバイトの山口大介さんと話したことで、額縁を含めた作品の姿が見えるようになりました。ムサビの中にひとつの文化を背負おうとする先輩がいるということに、尊敬の念を抱きました。読者の皆さま、ここまでご覧いただきましてありがとうございます。〈石崎〉

アンケートに答えてくださったみなさんありがとうございます！ 予想外の統計を取ることができました！ ムサビ生の共通した性質や一人ひとりの個性が反映されていて、読んでいて楽しかったです。今号でムサビ生のバイト事情を垣間見ることができたら幸いです。また、気になるあの子で取り上げたへ hitoyaneのお二人ありがとうございます。ここには書ききれないほどのユーモアのある方々で、今後の活動が楽しみです！〈井上〉

2020年、ムサビに入学してからmauleafはコロナウイルスの影響で停刊していました。今年は様々な困難を乗り越えてようやく復刊になり、私は編集者の一員としてとても嬉しくやる気満々でした！ 今回は主に「留学生のアルバイト事情」を担当しました。事前のアンケート調査を通して、多くの留学生同士と知り合い、きちんと彼らの話を聞くことができました。学業が忙しいのに製作費を自分で稼ごうなど、リスペクトできる方がたくさんいます。ぜひその姿を伝えたい！〈スウ〉



2021年6月、武蔵野美術大学美術館の脇に突然現れた小さな木の家。その中には机や椅子などの家具作品が展示されていました。かと思えば、数週間後にはは9号館の脇に移動し、まったく別の作品を展示。そんな一風変わったアートスペース「へ hitoyane room」を運営しているのは、アートユニットの「へ hitoyane」です。へ hitoyane roomに込めた思いや、今後の展開について聞きました！

— へ hitoyane roomを始めたきっかけは？

泉 | 最初のきっかけは、2020年12月に僕たちが所属している鈴木康広ゼミで有志展をやることになり、車のような什器をつくらうという話があがったことでした。

諏訪 | わたしが『グッバイ、サマー』というフランス映画で車輪のついた移動する家を見て、「かわいくない? つくりたいね」と言ったんです。

泉 | その後、紆余曲折あって有志展ではつくらず、展覧会が終わったあとにあらためてふたりでつくることにしました。

— どのような車を考えていたのですか？

泉 | 当初は車輪の付いた「移動式ギャラリーカー」を想定していました。

諏訪 | キャンパス内を自由に移動することができ展示空間をつくりたくて。コロナで学内外の展示会場や展示室が使えなくなりましたし、対面授業もできなくなり人と交流する場が減ってしまっただから、いろんな人が展示・交流できる場や機会をつくりたいという話になったんです。

泉 | ただ、車輪付きだと全体を支えて固定するのが物理的に大変だし、その形のまま保管する場所がなかったの、最終的には車輪を付けないことにしました。

— 「へ hitoyane room」という名前はどのように決めたのでしょうか？

諏訪 | 名前はずごく迷ったよね。『○○ギャラリー』とかだと展示室という印象が強くなってしまふから、空間の使い方を限定しないようなイメージが持てる名前にとしよう。さらに、屋根の形が個性的だから、家を連想させるようなかわいらしい名前がいいなと考えました。

泉 | 漢字1文字で考えていたときもあったよね。

諏訪 | そうだね。最初は田舎の「舎」が意味的にいいなと思っていましたが、「舎」だけだと語呂が悪いからもっといいのがありそうだな。その後、「舎」の漢字の部首「へ（ひとやね）」が、屋根の形と似ていていいんじゃないかという話になりました。「へ」には人間の行動や性質という意味があり、人が出会うという「会」の字にもこの部首が付いています。屋根の下で人々が集い、交流する場所になりますようにと「へ hitoyane room」に決めました。

— 移動式という新しい展示方法に驚きました。

泉 | 僕らはもともと展覧会のキュレーションに興味があり、いろんな展覧会の企画をしたいと思っていました。それも、毎回別の場所で展示をするのでは

今度はどこに現れる？

なく、ひとつの拠点があるといふ。へ hitoyane roomは、そうした気持ちから生まれたものでもあります。

— キュレーションで工夫していることはありますか。

泉 | 空では“作品を見せる状況”を意識してつくることに重点を置くことが多いです。

諏訪 | 空間的な見せ方にこだわりが強いよね（笑）。先生からも日常的に指摘されることなので、自分の作品をキュレーション的な視点で見ると自然と身についているのかもしれない。

泉 | つくって終わりでなく、つくった作品をどのように展示したいのか、見る人がどんなふうに感じるかを常に考えますね。

諏訪 | 光のあて方とか什器の置き方、配線にも気をつけています。

泉 | へ hitoyane roomは作品の見せ方のひとつとして、屋外展示の可能性を広げるとも考えていて、屋内での展示は雨風や虫などから作品が守られるメリットがありますが、屋外はそうした面がない。でも外で展示すると、ドアや仕切られた空間がないぶん、屋内よりも気軽に寄ってもらえるところがあると思います。だからへ hitoyane roomだけではなく、みなさんも屋外でもっと展示したらムサビも盛り上がるのではないですか。

諏訪 | 夏祭りの屋台みたいにいっぱい増えたらいいよね（笑）。

— 展示を行うアーティストはどうやって決めていますか？

諏訪 | 最初は、誰も展示してくれないかもと不安で友だちに声をかけたりしていました。でも少しずつ、通りすがりの人が展示を見て「自分もやってみよう」と声をかけてくれるようになって。

泉 | いまはどうしても、関わる機会が多い空で4年生が多くなっていますが、ゆくゆくはいろんな学科・学年の人に使ってもらえたらと思っています。

諏訪 | ファイン系の人もぜひ展示をやってほしいですね。

泉 | でも多分、これ以上できないけど……。

諏訪 | そうなんです。というのも、わたしたちは今年で卒業なので、運営は冬までしかできません。だから後継者としてもしやらない人がいたら、へ hitoyane roomを譲ってもいいのかなと考えています。

泉 | そうだね。解体してしまうのもったいないから、いままでの使い方と同じではなくても、誰かこれを活用してくれたらいいなと思っています。

— 短い期間になるかもしれませんが、今後はどんな活動をしていきたいですか？

諏訪 | 以前は作品展示のみの展覧会がメインでしたが、今後はライブパフォーマンスやワークショップも行い、内容に広がりを出していきます。

泉 | これからは来場者とコミュニケーションがとれるようなイベントを増やしていきたいと思っています。

諏訪 | ギャラリーというイメージにとらわれず、今後はもっとみんなが自由な使い方をしてくれそうに楽しみたいです。



気になるあの子

へ hitoyane
泉 悠也+諏訪 萌々子
ともに空間演出デザイン学科4年
<https://hitoyaneroom.studio.site/>
Twitter | @hitoyaneroom
Instagram | @hitoyaneroom



制作系には携わりたいが、大学の環境と真反対のところに身を置くのも視野が広がって良い。どっちみち就職は制作系にいくと思うので。

(工芸工業デザイン学科3年)

子猫の体重を量るバイト。

(視覚伝達デザイン学科3年)

美術関連であればすでに結構理想的。

(油絵学科3年)

友達と喋るだけ。
(視覚伝達デザイン学科3年)

と思う理想的なアルバイトは？



めざましテレビの星座占いを適当に作るバイト。

(日本画学科2年)

みんな仲良く、なんでも言い合えるような職場。

(映像学科2年)

絵画等の修復。

(油絵学科3年)

カラオケのバックコーラス。

(工芸工業デザイン学科3年)

やはり、楽しく稼げる単発バイトがあれば最高。その点、校内バイトは楽しいし楽しだし単発だし、とっても良いと思う。

(デザイン情報学科3年)

草野剛デザイン事務所。

(視覚伝達デザイン学科3年)

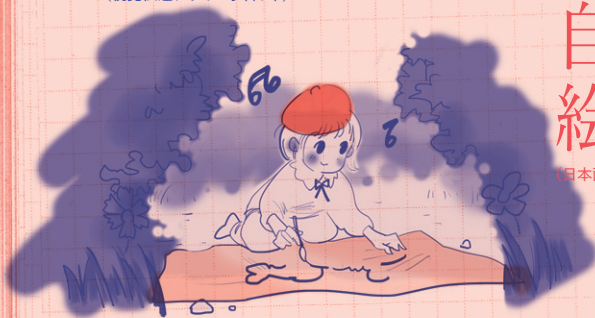


自然の中で絵を描きたい。

(日本画学科3年)

シフトの融通がめっちゃくちゃ利くバイト!!!!

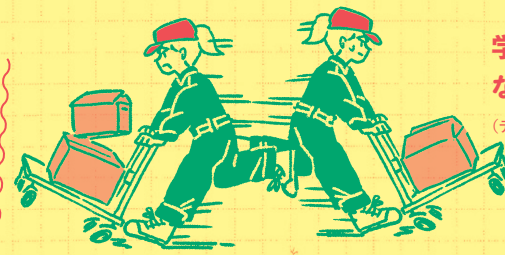
(視覚伝達デザイン学科3年)



「こんなバイトあったらいいなあ」

女の子とデートするバイト。

(工芸工業デザイン学科2年)



学校の課題がバイト扱いになってお金がもらえる。

(デザイン情報学科3年)

フカフカのベッドで寝ているだけで3万くらいもらえる。

(日本画学科3年)

寝てて金が稼げる。

(視覚伝達デザイン学科2年)

ひたすらひとりで仕分け作業とかしたい。

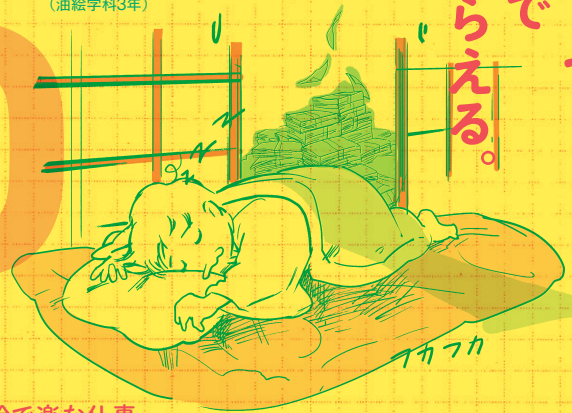
(デザイン情報学科3年)

アーティストのサポート、展示の手伝いなど。

(油絵学科3年)

ライブハウスで働きたい!!!!

(大学院視覚伝達デザインコース1年)



絶対ないけど高時給で楽な仕事。

(工芸工業デザイン学科2年)

生クリームを絞る。

(工芸工業デザイン学科3年)



ゲームのログインボーナスみたいに朝起きたら〇〇円、大学行ったら〇〇円みたいな感じで、真っ当な人バイトみたいなのがあったら大抵の人にお金が入るからいいな~と思う。国会等ぜひ可決されないか願うばかり。

(視覚伝達デザイン学科2年)

今のバイト!

(芸術文化学科1年)

相葉くん家の壁。

(工芸工業デザイン学科3年)

やって楽しいバイト。多少キツくてもやりがいがあって、自ら進んでやれるようなバイト。そうすれば自然と稼げる。(視覚伝達デザイン学科2年)

わたしのアルバイト01

作家と額縁制作、両立してこそ伝えられる文化がある p10

わたしのアルバイト02

美大生×デザイナー×アーティスト×美術予備校講師。

好きなことを全力でやり抜きたい

留学生のアルバイト事情 ー中国人留学生3人の座談会 p14



合計ページ数

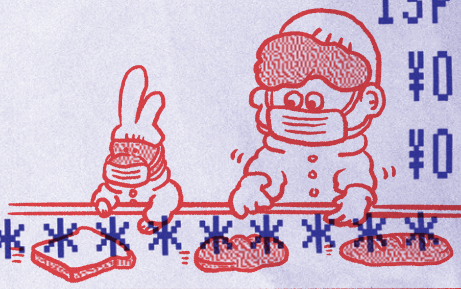
13P

合計金額

¥0

支払金額

¥0



お読みいただきありがとうございました



nauleaf web 専

<https://www.nauleaf.jp/>

